

道徳だより

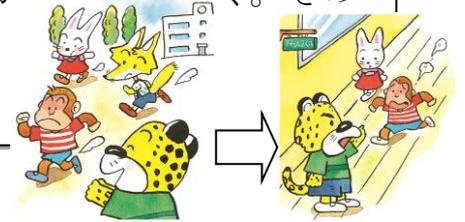


家庭と学校
力を合わせて

テーマ きまりについてかんがえよう（規則の尊重）
『どうしてかな』（1年生）

あらすじと学習の流れ

主人公のもんたが、外でボール投げをしていたら褒められたのに、教室でボールを投げたら先生に叱られた。また、校庭で走っていて褒められるが、廊下を走っていて叱られ、休み時間には元気がいいと褒められたのに、掃除の時間になるといけないと叱られた。この例を考えながら、なぜ同じ事をしているのに褒められたり、叱られたりするのかわかろうとする。その中で、きまりがあるのは、みんなが安全に暮らしていくためであることに気付かせたい。



児童のふり返り



- 教室でボールを投げるとガラスが割れたりして危ないからダメだとおもう。
- 廊下を走るとぶつかるから危ないです。
- これからがんばることとして
- これからは、いすをブランコみたいに揺らしません。
- これからは、寄り道しないで帰ります。

担任より

低学年の子どもは、大人に叱られることを特に嫌がり、褒めてほしいという欲求が強いものです。そのため、規則やきまりを表面上は守ろうと行動する子ども達が多いです。

しかし、その場の楽しさやおもしろさにつられて、規則やきまりを破ってしまうことも多いことも事実です。例えば、廊下や教室を走ってしまったり、順番を守らず割り込んでしまったりするもめごとなども多いといえます。

これは、自己中心的な考え方が強かったり、規則やきまりの意味や大切さが十分には理解できていなかったりするため、その規則やきまりを破ると、周りの人が嫌な思いをしたり、周りの人に迷惑が掛かってしまったりするということまで思いが至らないのだと考えられます。そこで、なぜその規則やきまりがあるのか、守らなければどうなるのかをしっかりと考えさせ、大人に叱られるから守るのではなく、自らきまりを守ろうとする意識が育つといいですね。

（でも、まだまだ1年生。ゆっくりゆっくりいろんなことを学んでいくといいですね。）